資料１

情報収集衛星について
（Information Gathering Satellite）

令和８年11月18日
内閣官房国家情報局
内閣衛星情報センター

導入の経緯

平成10年８月　　北朝鮮がミサイル「テポドン」を発射

同年12月　　情報収集衛星の導入を閣議決定

政府は、**外交 ・ 防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理**のために必要な情報の収集を主な目的として、平成14年度を目途に情報収集衛星を導入することとする。

同衛星の開発及び運用 ・利用については、準備体制を含め相当の組織体制と経費を必要とするので、中央省庁等改革との整合性を図りつつ行政の簡素・効率化及び内閣の情報収集機能強化の観点から**同衛星の運用等に係る組織体制の整備**を行うなど、関係機関の緊密な連携、協力の下、**政府が一体となって**適切に対応することとする。

平成10年12月22日
閣　議　決　定



平成10年８月31日
北朝鮮によるテポドンの発射

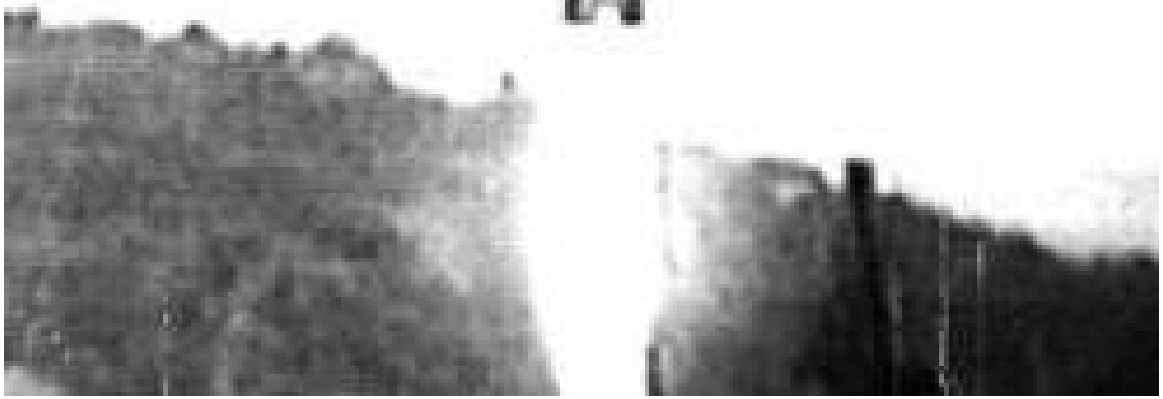
平成13年 ４月　　内閣衛星情報センター設置

平成15年 ３月　　光学１号機・レーダ１号機打上げ

⋮

令和８年４月　　設立25周年

令和8年7月　国家情報局設立



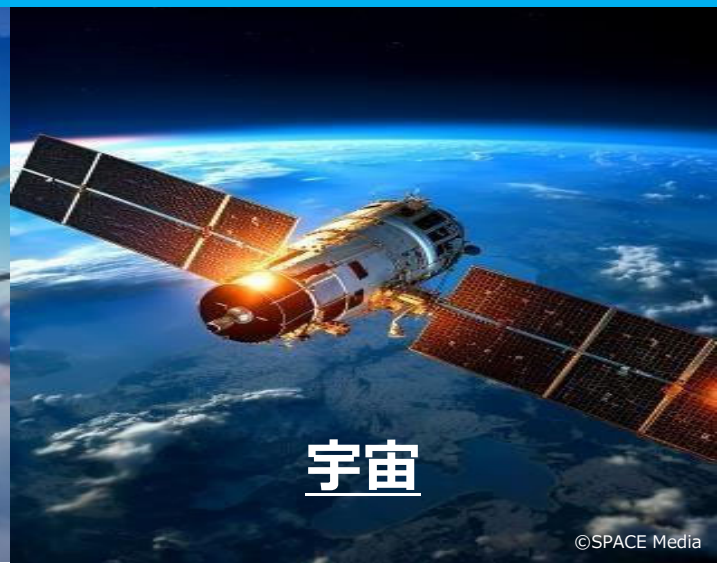
引用：時事通信

内閣衛星情報センターの概要

内閣衛星情報センターが担う領域







内閣衛星情報センターの主な業務







情報収集衛星の特色

自主開発

我が国の技術による自主開発を基本

商用衛星を凌駕する解像度等の高い技術力を保持

我が国独自のツール

撮像には地理的、政治的制約なし

他国のシャッターコントロールを受けない

幅広く活用

画像情報に基づく分析を官邸やインテリジェンス・コミュニティが幅広く活用

衛星の特色



注:北極から見た地球
weathernewsより加工

- 情報収集衛星は地球を南北に高速周回（１周約90分）
- 地球の自転により基本的に毎日同じ時間帯で世界各地を撮像
  （例えば、朝９時に撮像する衛星は毎日９時頃撮像）

撮像から配布までの流れ

情報要求





各省庁

- 内閣官房
- 公安調査庁
- 警察庁
- 外務省
- 海上保安庁
- 防衛省
- 国土地理院
- 経済産業省

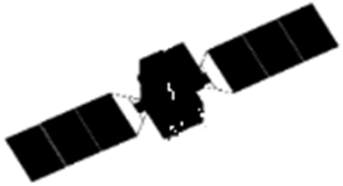
1 撮像計画



2 撮像指示送信



3 撮像
4 画像データ送信



5 画像データ受信



6 判読分析



7 配布

内閣衛星情報センターの組織

内閣衛星情報センター

国家情報局長

所長

次長

中央センター

- 管理部
  - 総務課
  - 会計課
  - 運用情報管理課
- 分析部
  - 管理課
  - 主任分析官×６
- 技術部
  - 企画課
  - 管制課
  - 主任開発官×３
- 総括開発官

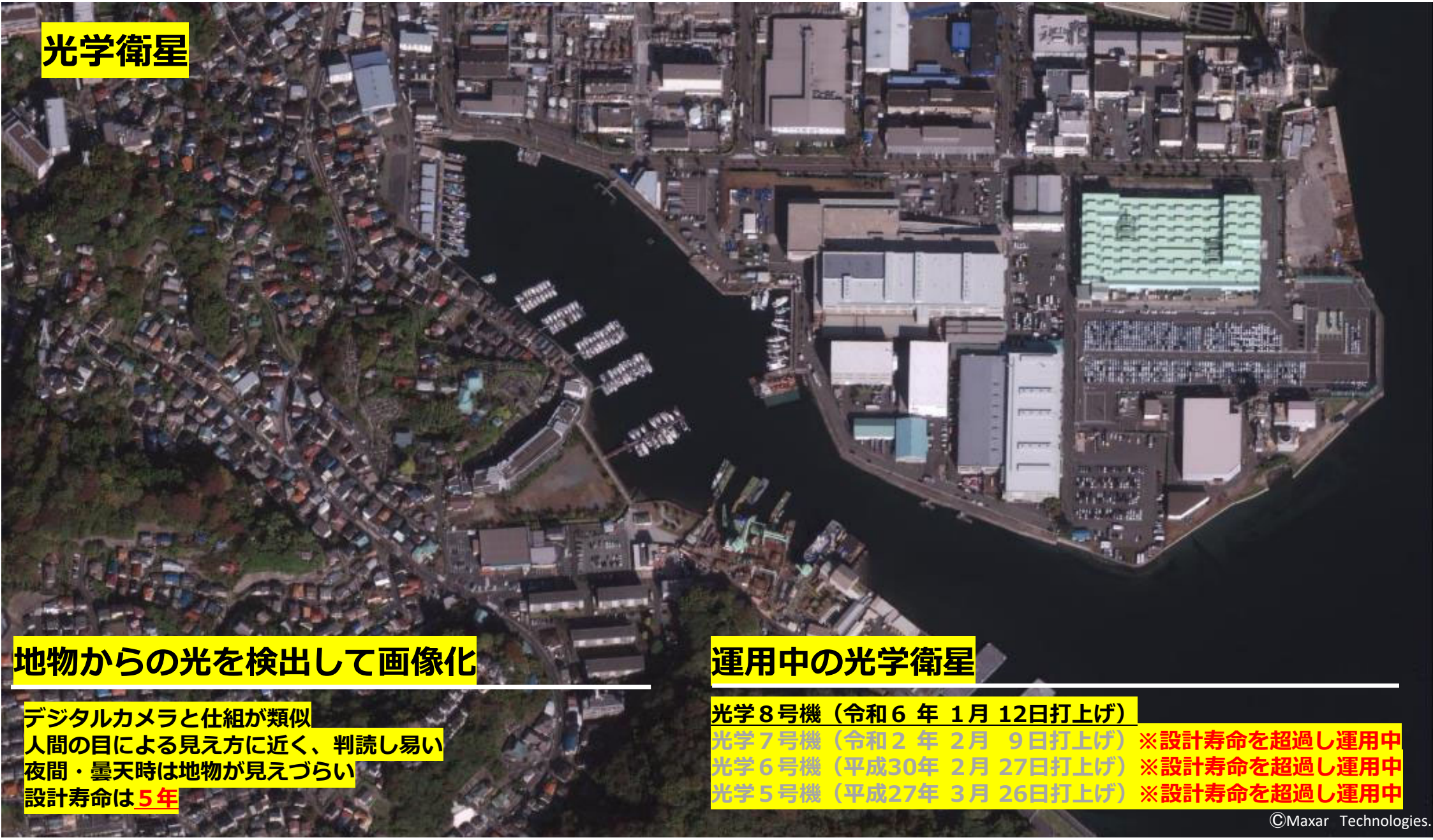
- 副センター
- 北受信管制局
- 南受信管制局

実員 約380名
（令和８年４月時点）



※　衛星運用等の一部の部署は24時間体制

情報収集衛星の種類と運用状況



光学衛星

地物からの光を検出して画像化

デジタルカメラと仕組が類似
人間の目による見え方に近く、判読し易い
夜間・曇天時は地物が見えづらい
設計寿命は５年

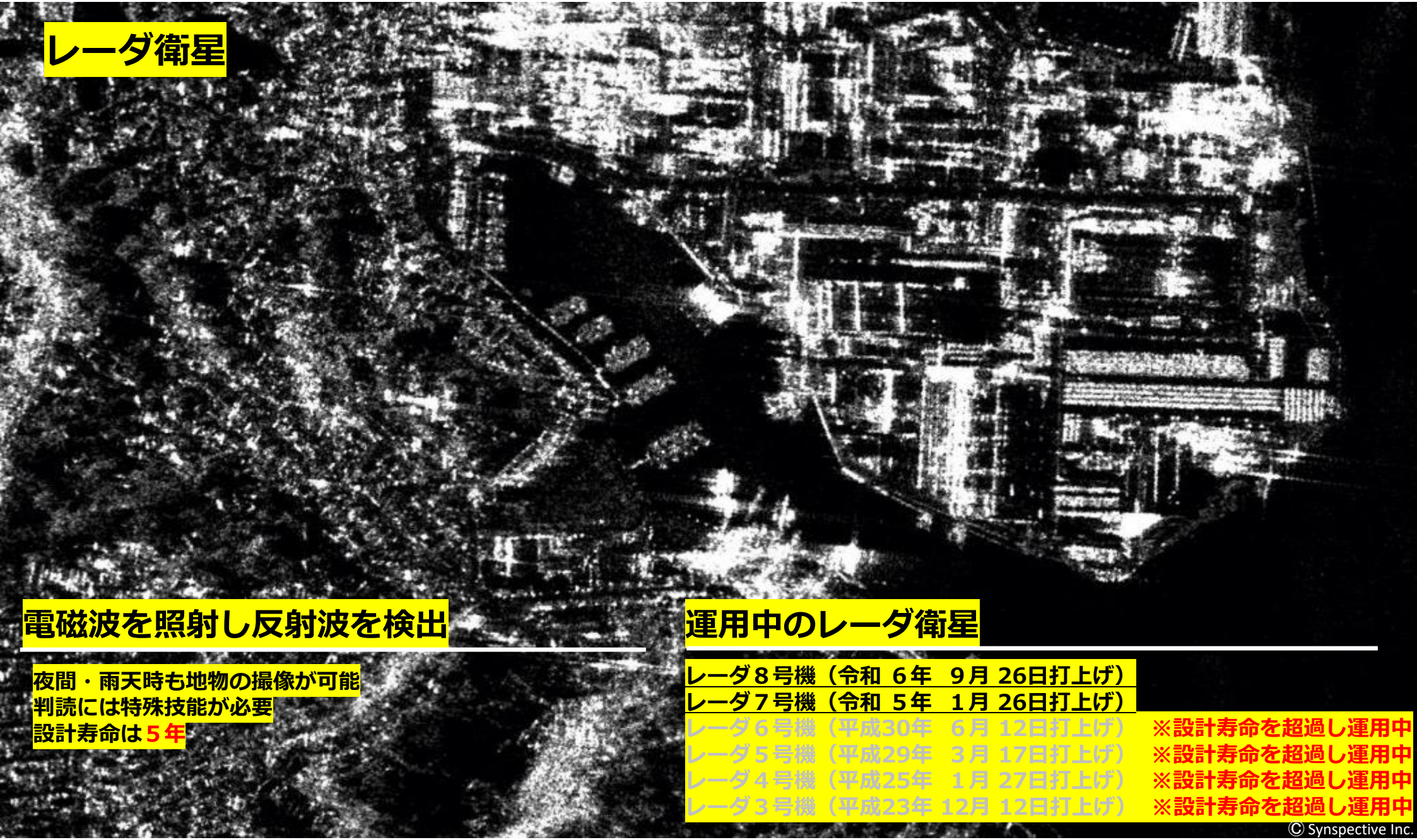
運用中の光学衛星

光学８号機（令和６ 年 １月 12日打上げ）
光学７号機（令和２ 年 ２月 ９日打上げ）※設計寿命を超過し運用中
光学６号機（平成30年 ２月 27日打上げ）※設計寿命を超過し運用中
光学５号機（平成27年 ３月 26日打上げ）※設計寿命を超過し運用中

©Maxar Technologies.

情報収集衛星の種類と運用状況

レーダ衛星



電磁波を照射し反射波を検出

夜間・雨天時も地物の撮像が可能
判読には特殊技能が必要
設計寿命は５年

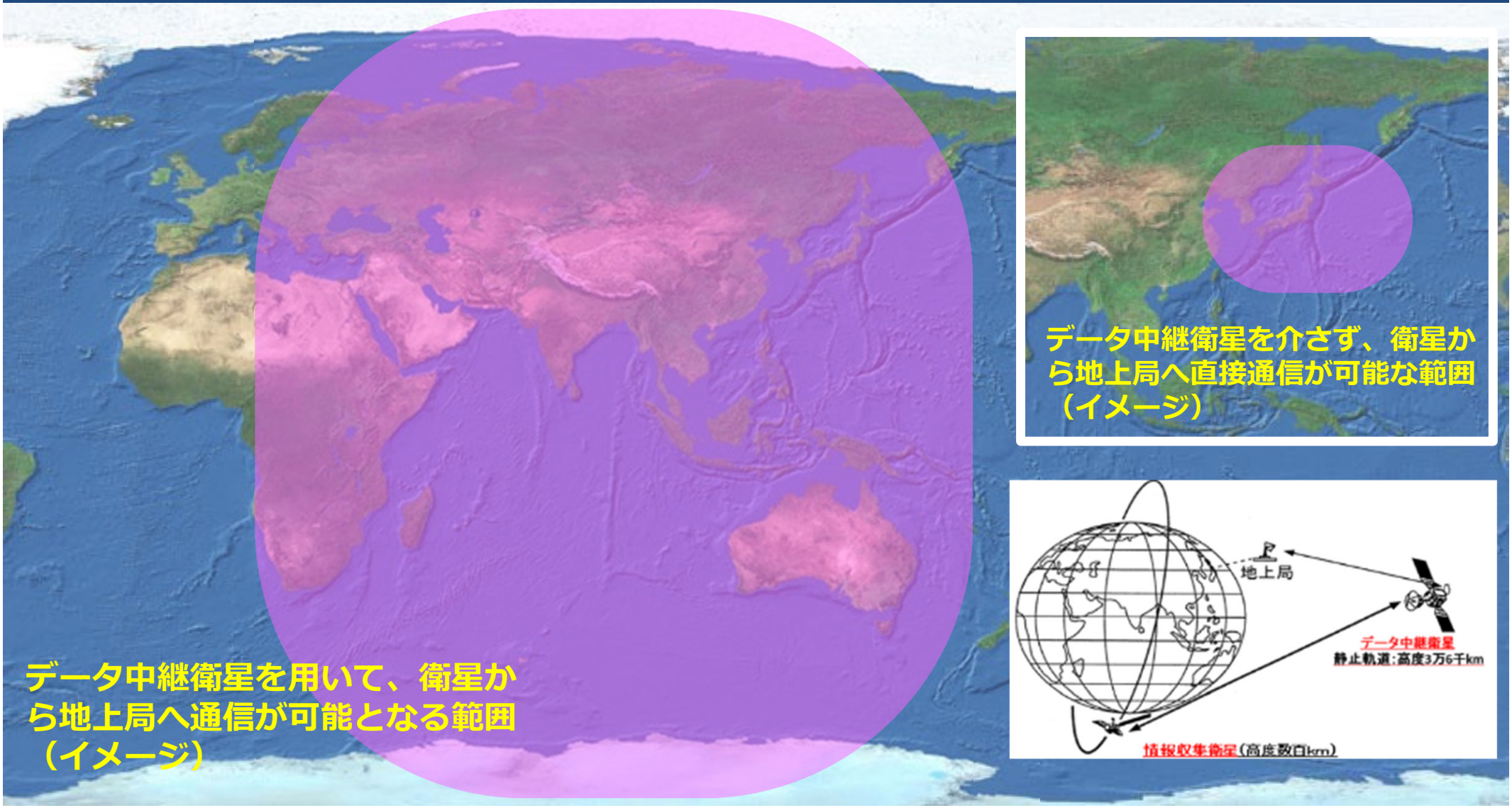
運用中のレーダ衛星

レーダ８号機（令和 ６年 ９月 26日打上げ）	
レーダ７号機（令和 ５年 １月 26日打上げ）	
レーダ６号機（平成30年 ６月 12日打上げ）	※設計寿命を超過し運用中
レーダ５号機（平成29年 ３月 17日打上げ）	※設計寿命を超過し運用中
レーダ４号機（平成25年 １月 27日打上げ）	※設計寿命を超過し運用中
レーダ３号機（平成23年 12月 12日打上げ）	※設計寿命を超過し運用中

© Synspective Inc.

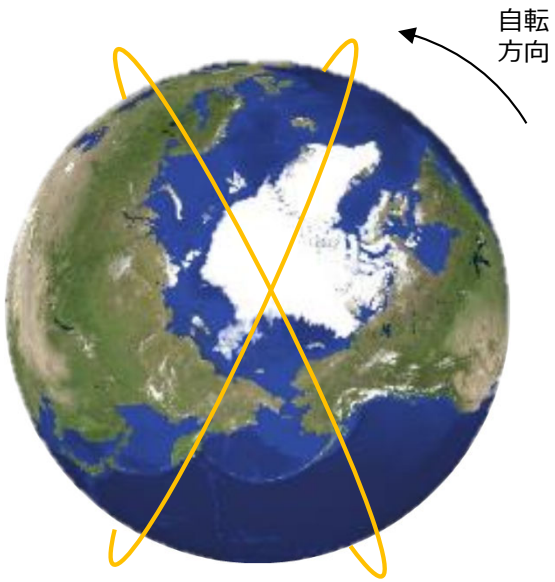
データ中継衛星について

データ中継衛星は情報収集衛星と地上局との間でデータ伝送を中継



将来の衛星構成イメージ

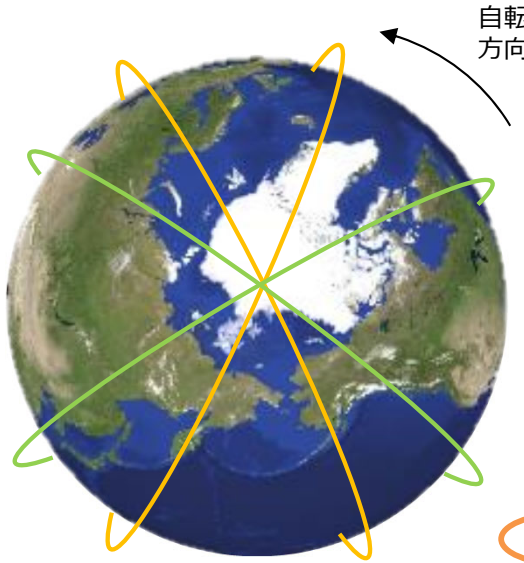
現行のイメージ（２つの撮像時間帯）



光学衛星２機（※）
レーダ衛星２機（※）
データ中継衛星１機
（※）別途、寿命を超えて運用中の衛星あり

北極方向から
見た地球

将来のイメージ（多様な撮像時間帯）



オレンジ …従来の軌道
緑 …新たな軌道

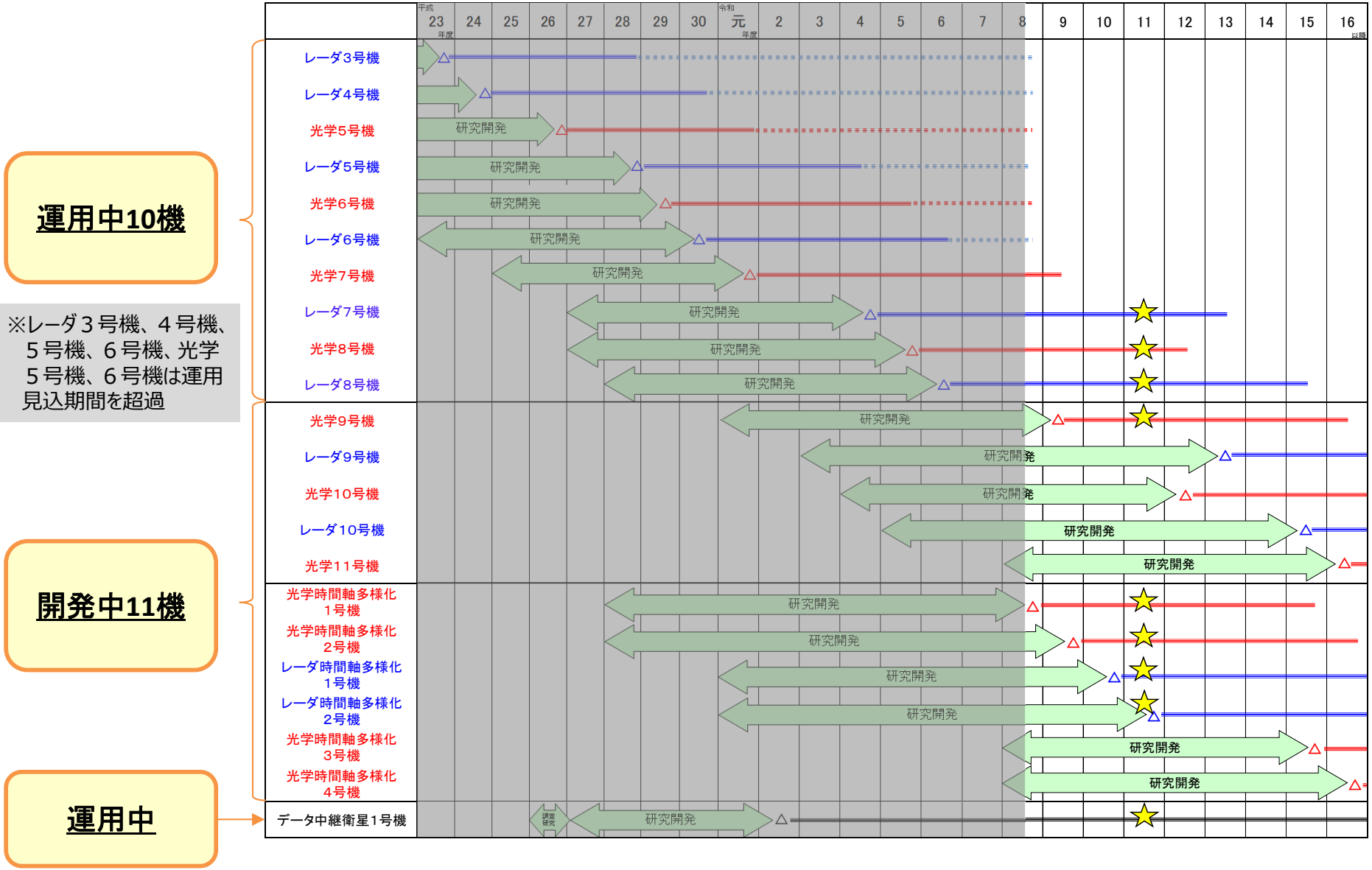
光学衛星４機
レーダ衛星４機
データ中継衛星２機（うち１機は計画凍結中）

引用：weathernewsより加工

情報収集衛星の打上げについて

1．概要

- 令和11年度に ☆（光学衛星4機、レーダ衛星4機及びデータ中継衛星1機）からなる情報収集衛星の構成（※注）を確立させるため、今年度以降、衛星の打上げが順次予定されている。
- 情報収集衛星（光学時間軸多様化1号機:KT1）は、令和8年度後半に打上げ、既存の衛星軌道とは異なる衛星軌道への投入を予定。



情報収集衛星の利用分野例

ミサイル発射活動の監視



核関連施設の状況確認



紛争・動乱後の破壊状況把握



空港の状況把握



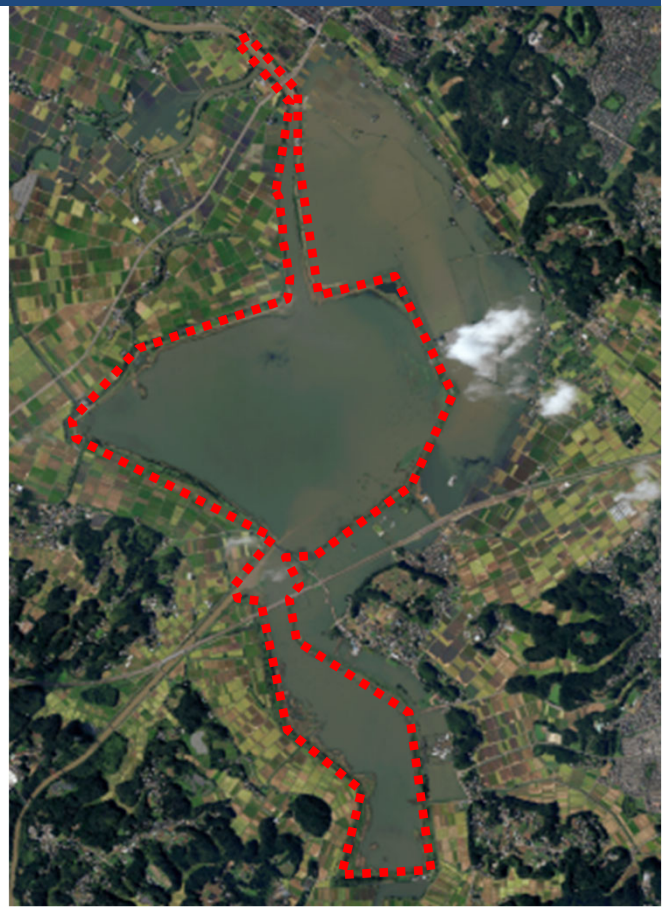
情報収集衛星の利用分野例

大規模災害等に際して、衛星画像の特長である広域性・俯瞰性を活かしつつ、特定秘密に該当する衛星の識別能力を正確に察知されないようにした「加工処理画像」を関係府省庁（内閣府防災、国家危機管理室、防衛省等）に提供するとともに、国民に公開している。

災害による被災状況の把握



【内閣官房HPに公開されている加工処理画像の例】
台風第25号等による千葉県における豪雨災害
（千葉県印旛沼付近）



（※）赤点線は通常時の印旛沼

情報収集衛星の利用分野例

「加工処理画像」は、大規模災害等の有事における活用だけでなく、危機管理や安全保障上重要な箇所についての定点監視・観測にも利用されており、近年その提供数は大幅に増加している。

活火山の監視・観測



霧島山（新燃岳）：気象庁へ提供

内閣衛星情報センターと防衛省との連携強化

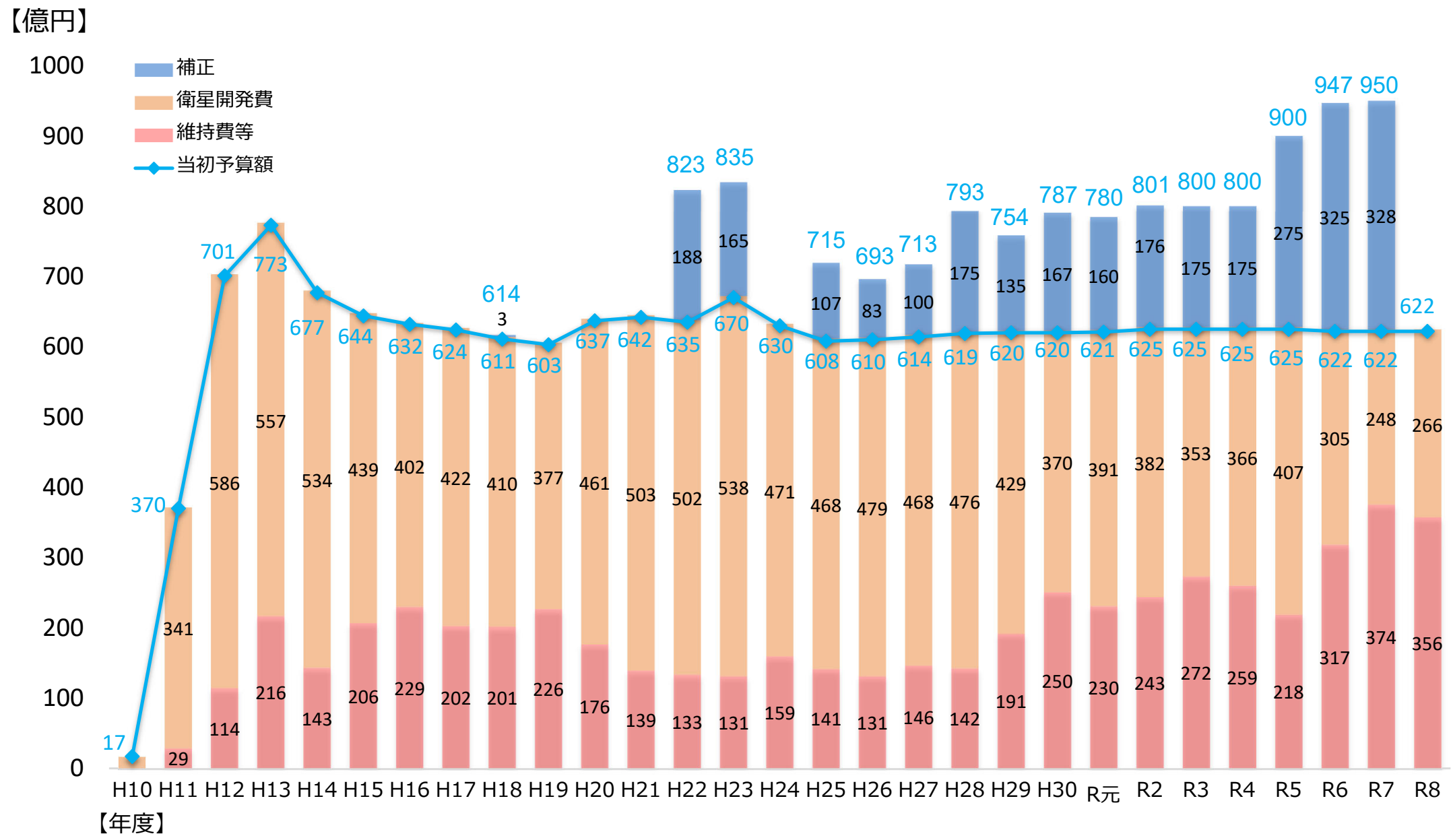
国家安全保障戦略 ＜令和４年12月16日閣議決定＞（抜粋）	国家防衛戦略 ＜令和４年12月16日閣議決定＞（抜粋）	防衛力整備計画 ＜令和４年12月16日閣議決定＞（抜粋）
画像情報については、情報収集衛星の機能の拡充・強化を図るとともに、内閣衛星情報センターと防衛省・自衛隊の協力・連携を強化するなどして、収集した情報の更なる効果的な活用を図る。	情報収集衛星により収集した情報を自衛隊の活動により効果的に活用するために必要な措置をとる。	情報収集衛星・民間衛星等を活用した宇宙領域からの情報収集能力を強化するとともに、米国との連携強化や、民間衛星の利用等を始めとする各種取組によって補完しつつ、目標の探知・追尾能力の獲得を目的とした衛星コンステレーションを構築する。

▼

- ○ 情報収集衛星画像の利便性の向上
- ○ 画像分析における連携
- ○ 地上システム端末の防衛省への増設
- ○ 自衛隊演習への参画　など

情報収集衛星予算の推移

※　四捨五入のため、必ずしも合計が一致するわけではない。



課題

情勢の変化

ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮の核開発の進展や度重なるミサイル発射等、我が国をめぐる**安全保障環境が厳しさを増しており、情報収集衛星の更なる活用が急務**

▼

情報収集衛星の機数増と安定的な維持を確保し、更なる機能の拡充・強化を図り、多様な時間帯での撮像等の能力向上を図る必要

予算の確保

政府のインテリジェンス機能強化の方針も踏まえつつ、**情報収集衛星の機数増による情報収集能力の早期達成と機能の拡充・強化**のために**必要な予算の確保**が**最大の課題**

体制の強化

特定の地域に関する**２４時間分析体制を早期に確立**し、ＡＩの活用等を通じた判読分析能力向上などのための**人員体制の強化**

（参考）関係する主な政府戦略①

宇宙基本計画＜令和５年６月13日閣議決定＞（抜粋）

４　宇宙政策に関する具体的アプローチ

（１）宇宙安全保障の確保

（a）宇宙安全保障のための宇宙システム利用の抜本的拡大

【情報収集衛星の機能強化】

安全保障環境が厳しさと不確実性を増す中、光学・レーダ衛星各４機及びデータ中継衛星を加えた機数増を着実に実施し、**10機体制が目指す情報収集能力の向上を早期に達成する。**その際、衛星の開発等に当たっては、必要な機能の確保に留意しつつ、**競争環境の醸成や同型機一括調達等によるコスト縮減等を図る**とともに、**内閣衛星情報センターと防衛省・自衛隊を始めとする関係省庁との協力・連携を強化するなどして、収集した情報の更なる効果的な活用を図る。**（内閣官房、防衛省等）

（２）国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現に向けた具体的アプローチ

（b）リモートセンシング

加えて、大規模災害等の発生に際しては、被災等の状況の早期把握や被災者等の迅速な救助及び避難等に資するため、関係府省間において情報収集衛星により収集した情報を共有するとともに、その画像データの適切な利活用を図る。（内閣官房）

（参考）関係する主な政府戦略②

経済財政運営と改革の基本方針2026＜令和８年７月21日閣議決定＞　（抜粋）

国家情報会議・国家情報局の設置に伴う情報収集・分析能力の強化のため、対外情報収集機能の充実強化、ＡＩ等を活用した情報通信基盤の整備、人材育成等を推進するとともに、人的情報の収集体制を含めこれら活動を支える関係省庁の体制を可及的速やかに強化する。対外情報を収集するための有効な組織の在り方について検討を進める。**情報収集衛星の機数増を着実に実施することで、更なる機能の拡充・強化を図る。**

日本成長戦略＜令和８年７月21日閣議決定＞　（抜粋）

○本文：
（６）航空・宇宙 ⑤人工衛星・サービス ⅳ)主な施策
「**高精度観測衛星**、衛星光通信、燃料補給等の軌道上のサービス、高精度測位等**の中核技術の開発**やサービスの社会実装を支援する。」の施策として登録

○官民投資ロードマップ：
官民投資の具体像の１つとして、ロードマップに「**情報収集衛星の10機体制が目指す情報収集能力の早期達成**」を明記

自民党インテリジェンス戦略本部提言＜令和８年８月５日公表＞　（抜粋）

３．情報収集能力の強化（「収集の強化」）
（４）ジオイント能力の強化
（a）宇宙安全保障のための宇宙システム利用の抜本的拡大
（中略）
上記を踏まえ、以下提言する。
・**国家情報局は、内閣衛星情報センターの分析人員を増強し、24時間運用体制の早期実現を図ること**。
・政府有識者会議は、**衛星情報収集に関して国家情報局における収集と分析の独立性、防衛省との役割分担など、国益に資する在り方を模索すること**。